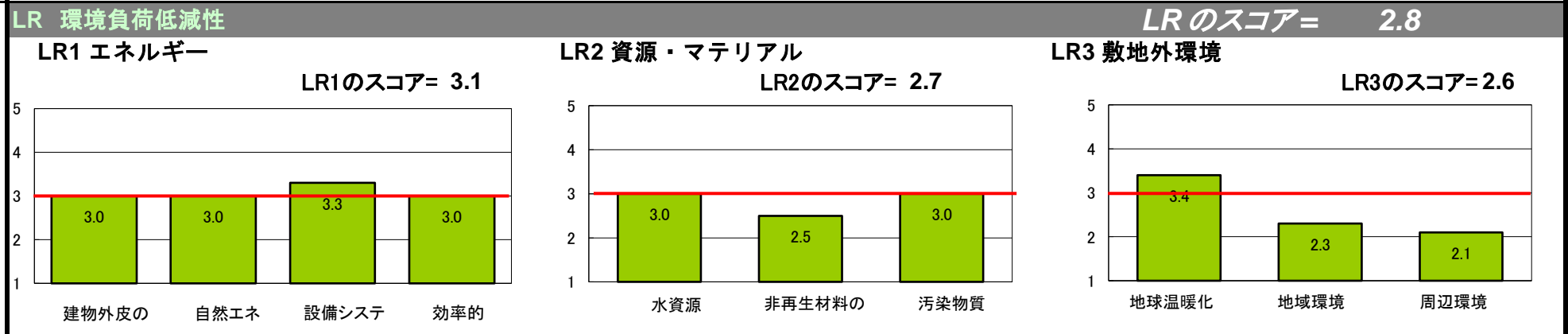
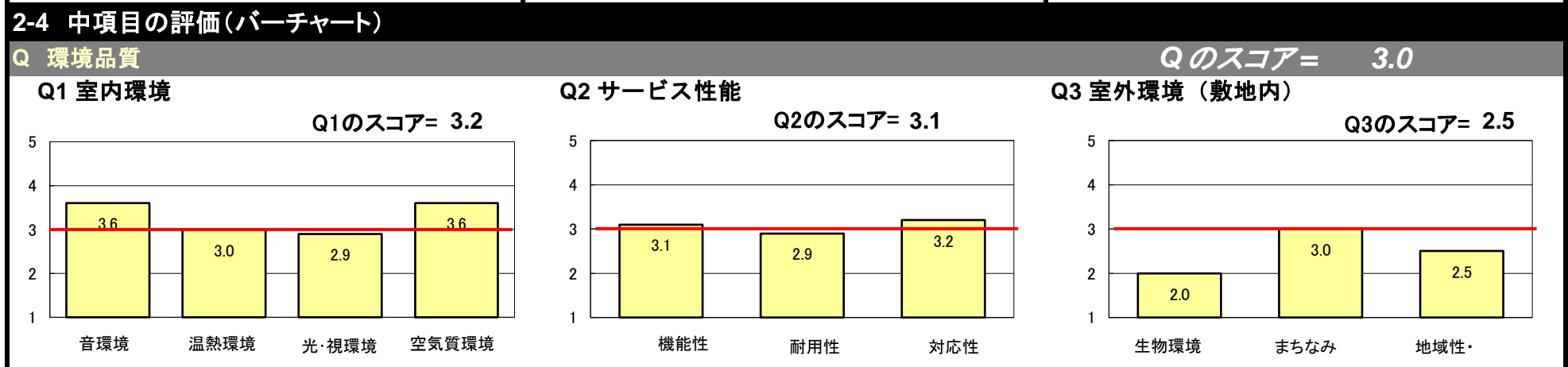
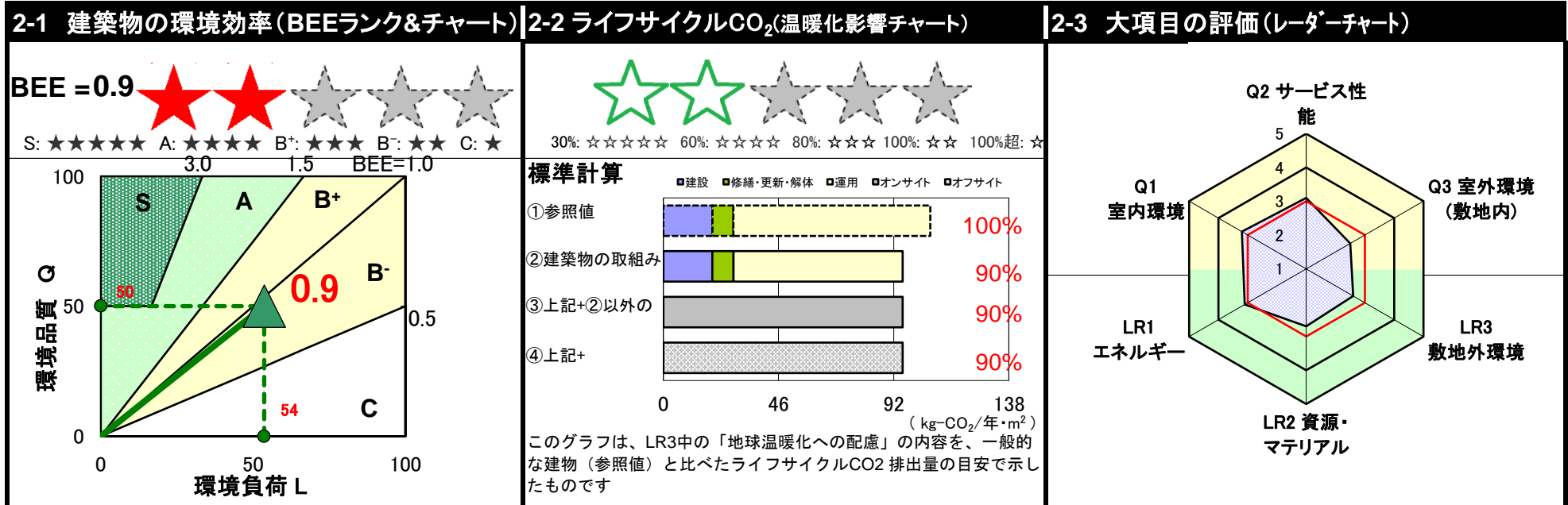


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サンクレーア西春	階数	地上15F
建設地	愛知県北名古屋市西春駅前一丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、特定都市河川	平均居住人員	110人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年2月26日
敷地面積	815 m ²	作成者	澤田 勉
建築面積	221 m ²	確認日	2021年2月26日
延床面積	2,633 m ²	確認者	澤田 勉



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体							
		Q 建築物の環境品質															3.0					
Q1 室内環境															3.2							
1 音環境															3.6							
1.1 室内騒音レベル															0.1	4.0	0.15	3.6	3.6	1.00		
1.2 遮音															3.0	3.0	0.50		3.0	0.50		
1.2.1 開口部遮音性能															0.5	5.0	0.50		4.2	0.50		
1.2.2 1 開口部遮音性能																5.0	1.00		5.0	0.30		
1.2.2 2 界壁遮音性能																3.0	-		5.0	0.30		
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																3.0	-		3.0	0.20		
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)																3.0	-		3.0	0.20		
1.3 吸音																3.0	-		3.0	-		
2 温熱環境															3.0	3.0	0.35	3.0	3.0	1.00		3.0
2.1 室温制御															0.3	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50		
2.1.1 1 室温															0.5	3.0	0.50		3.0	0.50		
2.1.1 2 外皮性能															3.0	3.0	0.63		3.0	0.63		
2.1.1 3 ゾーン別制御性															3.0	3.0	0.38		3.0	0.38		
2.2 湿度制御															3.0	3.0	-		-	-		
2.3 空調方式															3.0	3.0	0.20		3.0	0.20		
2.3.1 空調方式															3.0	3.0	0.30		3.0	0.30		
3 光・視環境															2.2	2.7	0.25	3.0	3.0	1.00		2.9
3.1 昼光利用															0.2	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30		
3.1.1 1 昼光率															0.3	3.0	0.60		3.0	0.50		
3.1.1 2 方位別開口															3.0	3.0	-		3.0	0.30		
3.1.1 3 昼光利用設備															3.0	3.0	0.40		3.0	0.20		
3.2 グレア対策															0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30		
3.2.1 1 グレア対策															5.0	3.0	1.00		3.0	1.00		
3.3 照度															3.0	1.0	0.15		3.0	0.15		
3.4 照明制御															3.0	3.0	0.25		3.0	0.25		
4 空気質環境															2.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00		3.6
4.1 発生源対策															0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63		
4.1.1 1 化学汚染物質															3.0	4.0	1.00		4.0	1.00		
4.2 換気															0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38		
4.2.1 1 換気量															3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
4.2.1 2 自然換気性能															3.0	3.0	-		3.0	0.33		
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮															3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
4.3 運用管理															-	-	-		-	-		
4.3.1 1 CO ₂ の監視															3.0	3.0	-		-	-		
4.3.1 2 喫煙の制御															3.0	3.0	-		-	-		
Q2 サービス性能															-	0.30	-	-	-	-		3.1
1 機能性															0.4	3.0	0.40	3.2	3.2	1.00		3.1
1.1 機能性・使いやすさ															0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60		
1.1.1 1 広さ・収納性															3.0	3.0	-		3.0	-		
1.1.1 2 高度情報通信設備対応															3.0	3.0	-		3.0	1.00		
1.1.1 3 バリアフリー計画															3.0	3.0	1.00		-	-		
1.2 心理性・快適性															0.3	3.0	0.30	3.5	3.5	0.40		
1.2.1 1 広さ感・景観 (天井高)															3.0	3.0	-		4.0	0.50		
1.2.1 2 リフレッシュスペース															3.0	3.0	-		-	-		
1.2.1 3 内装計画															3.0	3.0	1.00		3.0	0.50		
1.3 維持管理															0.3	3.0	0.30		-	-		
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計															3.0	3.0	0.50		-	-		
1.3.1 2 維持管理用機能の確保																3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性															0.3	2.9	0.31	-	-	-		2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振															0.4	3.0	0.48		-	-		
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)															3.0	3.0	0.80		-	-		
2.1.1 2 免震・制震・制振性能															3.0	3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数															0.3	3.0	0.33		-	-		
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数																3.0	0.23		-	-		
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																3.0	0.23		-	-		
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																3.0	0.09		-	-		
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔																3.0	0.08		-	-		
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔																3.0	0.15		-	-		
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔																3.0	0.23		-	-		
2.4 信頼性															0.1	2.8	0.19		-	-		
2.4.1 1 空調・換気設備															3.0	3.0	0.20		-	-		
2.4.1 2 給排水・衛生設備															3.0	2.0	0.20		-	-		
2.4.1 3 電気設備															3.0	3.0	0.20		-	-		
2.4.1 4 機械・配管支持方法															3.0	3.0	0.20		-	-		
2.4.1 5 通信・情報設備															3.0	3.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1	階高のゆとり		-	3.0	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00				
1	空調配管の更新性	②		3.0	0.17				
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性				-	0.40				2.8
LR1 エネルギー									3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	3.0	0.33				3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.93です。		0.33				3.3
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価									
4.1	モニタリング		3.0	3.0	-				
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	-				
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00				
4.1	モニタリング			3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				2.7
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15				3.0
1.1 節水			3.0	3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	1.00				
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	-				
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.5	0.63				2.5
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68				
1	消火剤			-	-				
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	1.00				
3	冷媒		3.0	-	-				
LR3 敷地外環境				-	0.30				2.6
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率は一般的な建物と同等です。		0.33				3.4
2 地域環境への配慮			0.3	2.3	0.33				2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自		3.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮			0.3	2.1	0.33				2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自		3.0	1.00				
2	振動	独自		-	-				
3	悪臭			-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	1.6	0.40				
1	風害の抑制			1.0	0.70				
2	砂塵の抑制			3.0	-				
3	日照障害の抑制			3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			0.2	1.6	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)サンクレーア西春

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)サンクレーア西春

計画上の配慮事項	
総合	住宅街のため周辺に配慮した外観、駐車スペースを確保した。
Q1 室内環境	南側に大きく開口部を設けた。
Q2 サービス性能	階高2.9m以上とし室内高2.5mとしゆとりのある住空間としている。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯上、駐輪場は建物内に設けた。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具にLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便座や水栓を採用。
LR3 敷地外環境	周辺住民に配慮し駐車場出入口を多方向から侵入できるよう設置。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。